

西武中学校と野田中学校の統合場所として西武中学校を選択した理由

① 仏子地区と野田・新光地区にバランスよく学校が配置できること

⇒「公共施設マネジメント事業計画」では、西武地区の小学校は、令和 14 年度に西武小学校の場所に統合する計画となっている。そのため、西武中学校を活用すれば入間川の南北、つまり仏子地区と野田・新光地区に 1 校ずつ学校が配置できることになる。地域コミュニティの拠点、災害時の避難場所としての学校の役割を考えると、両地区に 1 校ずつ配置するのが望ましい。

② 防災上も両地区に大規模な避難所が確保できること

⇒現在、西武小学校と仏子小学校、西武中学校と野田中学校の 4 校は、「地域防災計画」において指定緊急避難場所、避難所として指定されている。統合後の配置を西武小学校と西武中学校とすれば、仏子地区と野田・新光地区に避難所等がバランスよく配置されることになる。

なお、野田中学校を廃止する場合、新光地区からは避難所等が遠くなるが、新光地区には西武地区体育館があるため、それも含めて大規模施設の配置バランスはとれているものとする。

③ より広範囲に通学エリアが確保でき、利便性が高いこと

⇒西武中学校に統合する場合は、耐用年数を過ぎる校舎の建て替えが条件となる。そのため事業計画では、10 年後までに校舎を建て替え、統合する案となっている。統合時に学校を新設することは、その後 50～60 年程度は、その校舎を活用することが前提となる。

60 年間という長期的視点で考えた場合、より駅に近く広範囲に通学エリアが確保できる西武中学校のほうが、様々な可能性を持たせることができる。

〈ポイント〉

- ・駅が近く、学校行事、部活動などの関係で電車を利用する場合や、学区を超えて通学する生徒がいる場合などは利便性が高い。
- ・野田中学校区のうち、国道 299 号以南の野田地区からは、西武中学校への通学距離が近いため、統合した場合の負担は少ない。（西武中学校からの距離が 1.5 km 圏内に約 7 割の生徒が在住している）

④ 人口の将来動向

⇒長期的な視点としてコンパクトなまちづくりが指向されており、今後は郊外地区を市街化して住宅開発を行う可能性は低い。この考え方を野田・新光地区に当てはめると、今後の人口増加は見込めず、年少人口の減少が進む可能性が高い。一方、仏子地区も増加は見込めないが、これまでの推移から変動の幅が少ないことが想定される。また、仏子駅周辺は「生活拠点商業地」となっており、このエリアを中心としてコンパクトなまちづくりが可能であるため、将来的な拡張性も見込める。